

設置年度 令和 3年度
 計画の区分： 研究科の設置
 注1



宮城教育大学大学院 教育学研究科 高度教職実践専攻
 注2

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人宮城教育大学
 令和3年5月1日現在

作成担当者		
担当部局（課）名	経営企画課	経営企画係
職名・氏名	カカリチョウ 係長	フジワラ タダカズ 藤原 忠和
電話番号	022-214-3675	
（夜間）	022-214-3675	
e-mail	keieikikaku@adm2.miyakyo-u.ac.jp	

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
 設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
 ()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
 例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
 (旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
 表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
 例)
 ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
 ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
 ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
 ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
 ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
 ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
 ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
 ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

教育学研究科

＜高度教職実践専攻（専門職学位課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	13
6. 附帯事項等に対する履行状況等	44
7. その他全般的事項	45

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人宮城教育大学

(2) 大学名 宮城教育大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒980-0845
宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(ムラマツ タカシ) 村松 隆 (平成30年4月)		
研究科長	(マツオカ ナオトシ) 松岡 尚敏 (令和3年4月)		
専攻長	(ホンダ ヨシカツ) 本田 伊克 (令和3年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)
令和3年度に報告する内容 → (3)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
教育学研究科 高度教職実践専攻 専門職学位課程 教職修士（専門職）	教員養成関係	2年	52人	年次人	104人		基礎となる学部等 教育学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度 令和3年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	52 (-) [-]	- (-) [-]	0.98倍	一倍	
志願者数	55 (-) [-]	- (-) [-]			
受験者数	53 (-) [-]	- (-) [-]			
合格者数	52 (-) [-]	- (-) [-]			
B 入学者数	51 (-) [-]	- (-) [-]			
入学定員超過率 B/A	0.98				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	
1年次	51 (-) [-]	- (-) [-]	
2年次	/		
計	51 [-] (-)		

・令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

2 授業科目の概要

<教育学研究科 高度教職実践専攻（専門職学位課程）>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配年 当次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門高度化基盤科目	学びの地図と資質・能力	1		2		1	2					
	カリキュラムマネジメントと教師の役割	1		2		2	1					
	社会に開かれた教育課程と授業開発	1		2		1	2					
	小計(3科目)	—		6		3	3					
	授業設計・教科内容構成論(基礎)	1		2		1	4					兼1
	授業設計・教科内容構成論(応用)	1		2		1	4					兼1
	教育における臨床の学の創造	1		2		1	2					
	小計(3科目)	—		6		2	7					兼1
	子どもの生活と行動・実態把握論	1		2		2	1					
	子どもの生活と行動・実態把握論(特別支援)	1		2		2	1					
	子どもの生活と行動・実態分析論	1		2		2	1					
	子どもの生活と行動・実態分析論(特別支援)	1		2		2	1					
	特別支援教育と学校・学級経営	1		2		1						兼3
	特別支援教育と学校・学級経営(特別支援)	1		2		1						兼3
	小計(6科目)	—		12		3	1					兼3
	安心・安全な学校・学級づくり(基礎)	1		2		2	3					兼2
	安心・安全な学校・学級づくり(応用)	1		2		2	1					兼2
	小計(2科目)	—		4		2	3					兼2
	地域協働と学校づくり	1		2		2	2					兼1
	教師の成長と子どもの発達	1		2		1	2					兼2
小計(2科目)	—		4		3	3					兼3	
学校課題探究実習Ⅰ	1	2			3	3						
学校課題探究実習Ⅱ	1	2			3	3						
小計(2科目)	—	4	32		3	3						
教育における臨床の知	1・2		2		1	3						
教育実践記録と授業分析論	1・2		2		1	2						
社会変動と学力論	1・2		2		2							
クロスカリキュラムの学習と評価	1・2		2		2						兼1	
授業検証と教科内容開発(基礎・国語科)	1・2		2								兼3	
授業検証と教科内容開発(応用・国語科)	1・2		2								兼3	
授業検証と教科内容開発(基礎・社会科)	1・2		2		2						兼7	
授業検証と教科内容開発(応用・社会科)	1・2		2		2						兼7	

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配年 当次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門高度化基盤科目	学びの地図と資質・能力	1前		2		1	2					
	カリキュラムマネジメントと教師の役割	1前		2		2	1					
	社会に開かれた教育課程と授業開発	1後		2		1	2					
	小計(3科目)	—		6		3	3					
	授業設計・教科内容構成論(基礎)	1前		2		1	3					兼1
	授業設計・教科内容構成論(応用)	1後		2		3	3					兼1
	教育における臨床の学の創造	1後		2		1	2					
	小計(3科目)	—		6		4	5					兼2
	子どもの生活と行動・実態把握論	1前		2		2	1					
	子どもの生活と行動・実態把握論(特別支援)	1前		2		2	1					
	子どもの生活と行動・実態分析論	1後		2		2	1					
	子どもの生活と行動・実態分析論(特別支援)	1後		2		2	1					
	特別支援教育と学校・学級経営	1後		2		1						兼3
	特別支援教育と学校・学級経営(特別支援)	1後		2		1						兼3
	小計(6科目)	—		12		3	1					兼3
	安心・安全な学校・学級づくり(基礎)	1前		2		2	3					兼2
	安心・安全な学校・学級づくり(応用)	1後		2		2	1					兼2
	小計(2科目)	—		4		2	3					兼2
	地域協働と学校づくり	1前		2		2	2					兼1
	教師の成長と子どもの発達	1前		2		1	2					兼2
小計(2科目)	—		4		3	3					兼3	
学校課題探究実習Ⅰ	1前	2			20	11					兼20	
学校課題探究実習Ⅱ	1前	2			20	11					兼20	
小計(2科目)	—	4	32		20	11					兼20	
教育における臨床の知	1・2前		2		1	3						
教育実践記録と授業分析論	1・2後		2		1	2						
社会変動と学力論	1・2後		2		2							
クロスカリキュラムの学習と評価	1・2前		2		2						兼1	
授業検証と教科内容開発(基礎・国語科)	1・2前		2								兼3	
授業検証と教科内容開発(応用・国語科)	1・2後		2								兼3	
授業検証と教科内容開発(基礎・社会科)	1・2前		2		2						兼7	
授業検証と教科内容開発(応用・社会科)	1・2後		2		2						兼7	

専門高度化探究科目	教科探究科目 共通科目	授業検証と教科内容開発 (基礎・算数、数学科)A	1・2	2		1			兼4	
		授業検証と教科内容開発 (応用・算数、数学科)A	1・2	2		1			兼4	
		授業検証と教科内容開発 (基礎・算数、数学科)B	1・2	2		1			兼4	
		授業検証と教科内容開発 (応用・算数、数学科)B	1・2	2		1			兼4	
		授業検証と教科内容開発 (基礎・理科)A	1・2	2	1	1			兼5	
		授業検証と教科内容開発 (基礎・理科)B	1・2	2	1	1			兼6	
		授業検証と教科内容開発 (応用・理科)A	1・2	2	1	1			兼5	
		授業検証と教科内容開発 (応用・理科)B	1・2	2	1	1			兼6	
		授業検証と教科内容開発 (基礎・英語科)	1・2	2		1			兼3	
		授業検証と教科内容開発 (応用・英語科)	1・2	2		1			兼3	
	専門高度化探究科目	教科探究科目 共通科目	授業検証と教科内容開発 (基礎・技術科)	1・2	2	1				兼2
			授業検証と教科内容開発 (応用・技術科)	1・2	2	1				兼2
			授業検証と教科内容開発 (基礎・家庭科)	1・2	2		1			兼4
			授業検証と教科内容開発 (応用・家庭科)	1・2	2		1			兼4
			授業検証と教科内容開発 (基礎・音楽科)	1・2	2		1			兼4
			授業検証と教科内容開発 (応用・音楽科)	1・2	2		1			兼4
			授業検証と教科内容開発 (基礎・美術科)	1・2	2					兼2
			授業検証と教科内容開発 (応用・美術科)	1・2	2					兼3
			授業検証と教科内容開発 (基礎・保健体育科)	1・2	2		1			兼5
			授業検証と教科内容開発 (応用・保健体育科)	1・2	2		1			兼5
	小計(28科目)	—	56		8	9			兼46	
特別支援・子ども支援科目	インクルーシブ教育総論	1・2	2	1	1				兼2	
	特別支援教育コーディネーター概論	1・2	2	2					兼2	
	支援が必要な子どもと学校教育Ⅰ(知的障害・自閉症スペクトラム障害等)	1・2	2	2					兼1	
	支援が必要な子どもと学校教育Ⅱ(感覚障害・運動障害・身体疾患系)	1・2	2		1				兼2	
	不登校・学校不適応状況と学校教育	1・2	2	2	1					
	子どもをめぐる社会的諸問題と福祉	1・2	2		1				兼3	
	特別支援教育とICT	1・2	2	1	1				兼2	
	小計(7科目)	—	14		4	2				兼5

専門高度化探究科目	教科探究科目 共通科目	授業検証と教科内容開発 (基礎・算数、数学科)A	1・2前	2		1			兼4	
		授業検証と教科内容開発 (応用・算数、数学科)A	1・2後	2		1			兼4	
		授業検証と教科内容開発 (基礎・算数、数学科)B	1・2前	2		1			兼4	
		授業検証と教科内容開発 (応用・算数、数学科)B	1・2後	2		1			兼4	
		授業検証と教科内容開発 (基礎・理科)A	1・2前	2	2	0				兼5
		授業検証と教科内容開発 (基礎・理科)B	1・2前	2	2	0				兼6
		授業検証と教科内容開発 (応用・理科)A	1・2後	2	2	0				兼5
		授業検証と教科内容開発 (応用・理科)B	1・2後	2	2	0				兼6
		授業検証と教科内容開発 (基礎・英語科)	1・2前	2	1	0				兼3
		授業検証と教科内容開発 (応用・英語科)	1・2後	2	1	0				兼3
	専門高度化探究科目	教科探究科目 共通科目	授業検証と教科内容開発 (基礎・技術科)	1・2前	2	1				兼2
			授業検証と教科内容開発 (応用・技術科)	1・2後	2	1				兼2
			授業検証と教科内容開発 (基礎・家庭科)	1・2前	2		1			兼4
			授業検証と教科内容開発 (応用・家庭科)	1・2後	2		1			兼4
			授業検証と教科内容開発 (基礎・音楽科)	1・2前	2		0			兼5
			授業検証と教科内容開発 (応用・音楽科)	1・2後	2		0			兼5
			授業検証と教科内容開発 (基礎・美術科)	1・2前	2					兼2
			授業検証と教科内容開発 (応用・美術科)	1・2後	2					兼3
			授業検証と教科内容開発 (基礎・保健体育科)	1・2前	2		1			兼5
			授業検証と教科内容開発 (応用・保健体育科)	1・2後	2		1			兼5
	小計(28科目)	—	56		10	6			兼48	
特別支援・子ども支援科目	インクルーシブ教育総論	1・2前	2	1	1				兼2	
	特別支援教育コーディネーター概論	1・2前	2	2					兼2	
	支援が必要な子どもと学校教育Ⅰ(知的障害・自閉症スペクトラム障害等)	1・2前	2	2					兼1	
	支援が必要な子どもと学校教育Ⅱ(感覚障害・運動障害・身体疾患系)	1・2前	2		1				兼2	
	不登校・学校不適応状況と学校教育	1・2後	2	2	1					
	子どもをめぐる社会的諸問題と福祉	1・2前	2		1				兼3	
	特別支援教育とICT	1・2前	2	1	1				兼2	
	小計(7科目)	—	14		5	2				兼5

学校課題解決マネジメント科目	地域協働フィールドワーク論	1・2	2	2							兼1	
	リーガルマインドによる学校づくり	1・2	2	2	1						兼1	
	学校安全と防災教育	1・2	2	3	2							
	情報リテラシーとICT	1・2	2	1	1						兼1	
	グローバル教育課題の探究	1・2	2	2							兼3	
	幼年期の教育と幼保小連携・接続	1・2	2		2						兼2	
	小計(6科目)	—	12	6	5						兼7	
	学校(臨床における実習)	学校課題解決実習	2	2	5	4						
		臨床教育開発実習	2	4	5	4						
		小計(2科目)	—	6	5	4						
実践的指導力融合科目	実態把握と実践適応論	1	2	14	14							
	実践適応と評価・分析論	1	2	14	14							
	臨床教育総合演習A	2	2	12	13							
	臨床教育総合演習A(特別支援)	2	2	2	1							
	臨床教育総合演習B	2	2	12	13							
	臨床教育総合演習B(特別支援)	2	2	2	1							
小計(6科目)	—	12	14	14								
合計(67科目)	—		16	14							兼57	

卒業要件及び履修方法

修了所要単位数 46単位
(履修科目の登録の上限:通年36単位)

専門高度化基盤科目 24単位
専門高度化探究科目 8単位
専門高度化深化科目 14単位

○専門高度化基盤科目5領域の履修について
3つの履修プログラムで共通に履修する必修科目であり、各領域2単位以上、合計20単位を修得する。各学生の必要に応じて各領域の科目を修得することができる。

○専門高度化探究科目の履修について
3つの履修プログラムに対応したそれぞれの授業科目において8単位以上履修すること。

○学校における実習の履修について
「専門高度化基盤科目」の中の「学校における実習(基礎実践)」4単位(「学校課題探究実習Ⅰ」「学校課題探究実習Ⅱ」)および「専門高度化深化科目」の中の「学校における実習(臨床実践)」6単位(「学校課題解決実習」「臨床教育開発実習」)の合計10単位を修得する。「専門高度化基盤科目」での実習を踏まえ、「専門高度化深化科目」で発展的な実習を行う。

○専門高度化基盤科目における共通5領域の生徒指導・教育相談に関する領域、および専門高度化深化科目における実践的指導力融合科目の履修について
特別支援教育の専修免許状の取得を希望する場合は、「□□□□(特別支援)」の科目を履修すること。

学校課題解決マネジメント科目	地域協働フィールドワーク論	1・2前	2	2							兼1	
	リーガルマインドによる学校づくり	1・2後	2	2	2						兼1	
	学校安全と防災教育	1・2前	2	3	3							
	情報リテラシーとICT	1・2後	2	1	1						兼1	
	グローバル教育課題の探究	1・2前	2	2							兼3	
	幼年期の教育と幼保小連携・接続	1・2後	2		2						兼2	
	小計(6科目)	—	12	6	5						兼7	
	学校(臨床における実習)	学校課題解決実習	1後	2	18	10						兼20
		学校課題解決実習(特別支援)	1後	2	2	1						
		臨床教育開発実習	2通	4	18	10						兼20
実践的指導力融合科目	臨床教育開発実習(特別支援)	2通	4	2	1							
	小計(4科目)	—	6	20	11						兼20	
	実態把握と実践適応論	1前	2	20	11						兼20	
	実践適応と評価・分析論	1後	2	20	11						兼20	
	臨床教育総合演習A	2前	2	18	10						兼20	
	臨床教育総合演習A(特別支援)	2前	2	2	1							
臨床教育総合演習B	2後	2	18	10						兼20		
臨床教育総合演習B(特別支援)	2後	2	2	1								
小計(6科目)	—	12	20	11							兼20	
合計(69科目)	—		20	11							兼59	

卒業要件及び履修方法

修了所要単位数 46単位
(履修科目の登録の上限:通年36単位)

専門高度化基盤科目 24単位
専門高度化探究科目 8単位
専門高度化深化科目 14単位

○専門高度化基盤科目5領域の履修について
3つの履修プログラムで共通に履修する必修科目であり、各領域2単位以上、合計20単位を修得する。各学生の必要に応じて各領域の科目を修得することができる。

○専門高度化探究科目の履修について
3つの履修プログラムに対応したそれぞれの授業科目において8単位以上履修すること。

○学校における実習の履修について
「専門高度化基盤科目」の中の「学校における実習(基礎実践)」4単位(「学校課題探究実習Ⅰ」「学校課題探究実習Ⅱ」)および「専門高度化深化科目」の中の「学校における実習(臨床実践)」6単位(「学校課題解決実習」「臨床教育開発実習」)の合計10単位を修得する。「専門高度化基盤科目」での実習を踏まえ、「専門高度化深化科目」で発展的な実習を行う。

○専門高度化基盤科目における共通5領域の生徒指導・教育相談に関する領域、および専門高度化深化科目における実践的指導力融合科目の履修について
特別支援教育の専修免許状の取得を希望する場合は、「□□□□(特別支援)」の科目を履修すること。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨床実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・就任辞退及び追加配置により、「授業設計・教科内容構成論（基礎）」の専任教員等の配置を「准教授4」「兼任・兼任0」から「准教授3」「兼任・兼任1」に変更。
- ・昇任及び追加配置により、「授業設計・教科内容構成論（応用）」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授4」から「教授3」「准教授3」に変更。
- ・追加配置により、「学校課題探究実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授3」「准教授3」「兼任・兼任0」から「教授20」「准教授11」「兼任・兼任20」に変更。
- ・追加配置により、「学校課題探究実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授3」「准教授3」「兼任・兼任0」から「教授20」「准教授11」「兼任・兼任20」に変更。
- ・昇任により、「授業検証と教科内容開発（基礎・理科）A」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授1」から「教授2」「准教授0」に変更。
- ・昇任により、「授業検証と教科内容開発（基礎・理科）B」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授1」から「教授2」「准教授0」に変更。
- ・昇任により、「授業検証と教科内容開発（応用・理科）A」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授1」から「教授2」「准教授0」に変更。
- ・昇任により、「授業検証と教科内容開発（応用・理科）B」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授1」から「教授2」「准教授0」に変更。
- ・昇任により、「授業検証と教科内容開発（基礎・英語科）」の専任教員等の配置を「教授0」「准教授1」から「教授1」「准教授0」に変更。
- ・昇任により、「授業検証と教科内容開発（応用・英語科）」の専任教員等の配置を「教授0」「准教授1」から「教授1」「准教授0」に変更。
- ・就任辞退及び追加配置により、「授業検証と教科内容開発（基礎・音楽科）」の専任教員等の配置を「准教授1」「兼任・兼任4」から「准教授0」「兼任・兼任5」に変更。
- ・就任辞退及び追加配置により、「授業検証と教科内容開発（応用・音楽科）」の専任教員等の配置を「准教授1」「兼任・兼任4」から「准教授0」「兼任・兼任5」に変更。
- ・追加配置により、「リーガルマインドによる学校づくり」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・追加配置により、「学校安全と防災教育」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授3」に変更。
- ・追加配置により、「学校課題解決実習」の専任教員等の配置を「教授5」「准教授4」「兼任・兼任0」から「教授18」「准教授10」「兼任・兼任20」に変更。
- ・追加配置により、「臨床教育開発実習」の専任教員等の配置を「教授5」「准教授4」「兼任・兼任0」から「教授18」「准教授10」「兼任・兼任20」に変更。
- ・昇任及び追加配置により、「実態把握と実践適応論」の専任教員等の配置を「教授14」「准教授14」「兼任・兼任0」から「教授20」「准教授11」「兼任・兼任20」に変更。
- ・昇任及び追加配置により、「実践適応と評価・分析論」の専任教員等の配置を「教授14」「准教授14」「兼任・兼任0」から「教授20」「准教授11」「兼任・兼任20」に変更。
- ・昇任及び追加配置により、「臨床教育総合演習A」の専任教員等の配置を「教授12」「准教授13」「兼任・兼任0」から「教授18」「准教授10」「兼任・兼任20」に変更。
- ・昇任及び追加配置により、「臨床教育総合演習B」の専任教員等の配置を「教授12」「准教授13」「兼任・兼任0」から「教授18」「准教授10」「兼任・兼任20」に変更。
- ・教育効果向上のため、「学びの地図と資質・能力」の配当年次を「1」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「カリキュラムマネジメントと教師の役割」の配当年次を「1」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「社会に開かれた教育課程と授業開発」の配当年次を「1」から「1後」に変更。
- ・教育効果向上のため、「授業設計・教科内容構成論（基礎）」の配当年次を「1」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「授業設計・教科内容構成論（応用）」の配当年次を「1」から「1後」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教育における臨床の学の創造」の配当年次を「1」から「1後」に変更。
- ・教育効果向上のため、「子どもの生活と行動・実態把握論」の配当年次を「1」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「子どもの生活と行動・実態把握論（特別支援）」の配当年次を「1」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「子どもの生活と行動・実態分析論」の配当年次を「1」から「1後」に変更。
- ・教育効果向上のため、「子どもの生活と行動・実態分析論（特別支援）」の配当年次を「1」から「1後」に変更。
- ・教育効果向上のため、「特別支援教育と学校・学級経営」の配当年次を「1」から「1後」に変更。
- ・教育効果向上のため、「特別支援教育と学校・学級経営（特別支援）」の配当年次を「1」から「1後」に変更。
- ・教育効果向上のため、「安心・安全な学校・学級づくり（基礎）」の配当年次を「1」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「安心・安全な学校・学級づくり（応用）」の配当年次を「1」から「1後」に変更。
- ・教育効果向上のため、「地域協働と学校づくり」の配当年次を「1」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教師の成長と子どもの発達」の配当年次を「1」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「学校課題探究実習Ⅰ」の配当年次を「1」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「学校課題探究実習Ⅱ」の配当年次を「1」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教育における臨床の知」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教育実践記録と授業分析論」の配当年次を「1・2」から「1・2後」に変更。
- ・教育効果向上のため、「社会変動と学力論」の配当年次を「1・2」から「1・2後」に変更。
- ・教育効果向上のため、「クロスカリキュラムの学習と評価」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。

・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（基礎・国語科）」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（応用・国語科）」の配当年次を「1・2」から「1・2後」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（基礎・社会科）」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（応用・社会科）」の配当年次を「1・2」から「1・2後」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（基礎・算数、数学科）A」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（応用・算数、数学科）A」の配当年次を「1・2」から「1・2後」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（基礎・算数、数学科）B」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（応用・算数、数学科）B」の配当年次を「1・2」から「1・2後」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（基礎・理科）A」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（基礎・理科）B」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（応用・理科）A」の配当年次を「1・2」から「1・2後」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（応用・理科）B」の配当年次を「1・2」から「1・2後」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（基礎・英語科）」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（応用・英語科）」の配当年次を「1・2」から「1・2後」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（基礎・技術科）」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（応用・技術科）」の配当年次を「1・2」から「1・2後」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（基礎・家庭科）」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（応用・家庭科）」の配当年次を「1・2」から「1・2後」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（基礎・音楽科）」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（応用・音楽科）」の配当年次を「1・2」から「1・2後」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（基礎・美術科）」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（応用・美術科）」の配当年次を「1・2」から「1・2後」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（基礎・保健体育科）」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「授業検証と教科内容開発（応用・保健体育科）」の配当年次を「1・2」から「1・2後」に変更。
・教育効果向上のため、	「インクルーシブ教育総論」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「特別支援教育コーディネーター概論」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「支援が必要な子どもと学校教育Ⅰ（知的障害・自閉症スペクトラム障害等）」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「支援が必要な子どもと学校教育Ⅱ（感覚障害・運動障害・身体疾患系）」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「不登校・学校不適応状況と学校教育」の配当年次を「1・2」から「1・2後」に変更。
・教育効果向上のため、	「子どもをめぐる社会的諸問題と福祉」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「特別支援教育とICT」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「地域協働フィールドワーク論」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「リーガルマインドによる学校づくり」の配当年次を「1・2」から「1・2後」に変更。
・教育効果向上のため、	「学校安全と防災教育」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「情報リテラシーとICT」の配当年次を「1・2」から「1・2後」に変更。
・教育効果向上のため、	「グローバル教育課題の探究」の配当年次を「1・2」から「1・2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「幼年期の教育と幼保小連携・接続」の配当年次を「1・2」から「1・2後」に変更。
・教育効果向上のため、	「学校課題解決実習」の配当年次を「1」から「1後」に変更。
・教育効果向上のため、	「臨床教育開発実習」の配当年次を「1」から「1通」に変更。
・教育効果向上のため、	「実態把握と実践適応論」の配当年次を「1」から「1前」に変更。
・教育効果向上のため、	「実践適応と評価・分析論」の配当年次を「1」から「1後」に変更。
・教育効果向上のため、	「臨床教育総合演習A」の配当年次を「2」から「2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「臨床教育総合演習A（特別支援）」の配当年次を「2」から「2前」に変更。
・教育効果向上のため、	「臨床教育総合演習B」の配当年次を「2」から「2後」に変更。
・教育効果向上のため、	「臨床教育総合演習B（特別支援）」の配当年次を「2」から「2後」に変更。
・教育効果向上のため、	「学校課題解決実習（特別支援）」及び「臨床教育開発実習（特別支援）」を追加。

- (注) ・ 2(1) —① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
10 科目	57 科目	0 科目	67 科目	12 科 [2]	57 科目 [0]	0 科目 [0]	69 科目 [2]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{67} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考				
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
	校舎敷地	84,805㎡	0㎡	0㎡	84,805㎡					
	運動場用地	45,126㎡	0㎡	0㎡	45,126㎡					
	小 計	129,931㎡	0㎡	0㎡	129,931㎡					
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡					
	合 計	129,931㎡	0㎡	0㎡	129,931㎡					
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体					
	(33,551㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(33,551㎡)						
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	26室	47室	119室	4室 (補助職員 4人)	0室 (補助職員 0人)					
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数							
	大学院教育学研究科 高度教職実践専攻		31 室							
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本			
		〔うち外国書〕	〔うち外国書〕	電子ジャーナル				点	点	点
		冊	種	〔うち外国書〕						
大学院教育学研究科 高度教職実践専攻	383,441 [51,004]	172 [7]	29,352 [29,352]	2,662	33	0				
計	383,441 [51,004]	172 [7]	29,352 [29,352]	2,662	33	0				
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数					
	2,857㎡		361		268,278					
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
	1,496㎡		武 道 場 表 現 実 習 棟							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度		
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円		
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		千円	千円	千円	千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要										

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	宮城教育大学					学生募集停止学科数	3	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
教育学部											
初等教育教員養成課程	4	188	-	752	学士(学校教育学)	1.03	1.03	-	平成19	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149番地	
中等教育教員養成課程	4	107	-	428	学士(学校教育学)	1.04	1.04	-	平成19	同上	
特別支援教育教員養成課程	4	50	-	200	学士(学校教育学)	1.1	1.1	-	平成19	同上	
大学院教育学研究科(修士課程)											
特別支援教育専攻	2	-	-	-	修士(教育学)	-	-	-	昭和63	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149番地	令和3年より学生募集停止
教科教育専攻	2	-	-	-	修士(教育学)	-	-	-	昭和63	同上	令和3年より学生募集停止
(専門職学位課程)											
高度教職実践専攻	2	-	-	-	教職修士(専門職)	-	-	-	平成20	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149番地	令和3年より学生募集停止
高度教職実践専攻	2	52	-	104	教職修士(専門職)	0.98	0.98	-	令和3	同上	研究科の専攻の設置(事前伺い)

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<教育学研究科 高度教職実践専攻（専門職学位課程）>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和3年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	水谷 好成 <令和3年4月> 工学博士	専	教授	水谷 好成 <令和3年4月> 工学博士
		授業検証と教科内容開発（基礎・技術科） 授業検証と教科内容開発（応用・技術科） 学校安全と防災教育 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 特別支援教育とICT			授業検証と教科内容開発（基礎・技術科） 授業検証と教科内容開発（応用・技術科） 学校安全と防災教育 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 特別支援教育とICT 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習
専	教授	菅井 裕行 <令和3年4月> 博士（教育学）	専	教授	菅井 裕行 <令和3年4月> 博士（教育学）
		特別支援教育と学校・学級経営 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 特別支援教育と学校・学級経営（特別支援） 特別支援教育コーディネーター概論 臨床教育総合演習A（特別支援） 臨床教育総合演習B（特別支援） 学校課題解決実習 臨床教育開発実習			特別支援教育と学校・学級経営 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 特別支援教育と学校・学級経営（特別支援） 特別支援教育コーディネーター概論 臨床教育総合演習A（特別支援） 臨床教育総合演習B（特別支援） 学校課題解決実習（特別支援） 臨床教育開発実習（特別支援） 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	吉村 敏之 <令和3年4月> 教育学修士
		カリキュラムマネジメントと教師の役割 社会変動と学力論 授業設計・教科内容構成論(基礎) 教育における臨床の学の創造 教育における臨床の知 教育実践記録と授業分析論 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ 学校課題解決実習 臨床教育開発実習
専	教授	齊藤 千映美 <令和3年4月> 博士(理学)
		地域協働フィールドワーク論 クロスカリキュラムの学習と評価 実践把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B
専	教授	梨本 雄太郎 <令和3年4月> 修士(教育学)
		安心・安全な学級・学校づくり(基礎) 安心・安全な学級・学校づくり(応用) 地域協働と学校づくり 地域協働フィールドワーク論 リーガルマインドによる学校づくり 学校安全と防災教育 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	吉村 敏之 <令和3年4月> 教育学修士
		カリキュラムマネジメントと教師の役割 社会変動と学力論 授業設計・教科内容構成論(基礎) 教育における臨床の学の創造 教育における臨床の知 教育実践記録と授業分析論 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ 学校課題解決実習 臨床教育開発実習
専	教授	齊藤 千映美 <令和3年4月> 博士(理学)
		地域協働フィールドワーク論 クロスカリキュラムの学習と評価 実践把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ 学校課題解決実習 臨床教育開発実習
専	教授	梨本 雄太郎 <令和3年4月> 修士(教育学)
		安心・安全な学級・学校づくり(基礎) 安心・安全な学級・学校づくり(応用) 地域協働と学校づくり 地域協働フィールドワーク論 リーガルマインドによる学校づくり 学校安全と防災教育 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ 学校課題解決実習 臨床教育開発実習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
					渡辺 尚 <令和3年4月> 博士(生命科学)
			専	教授	授業検証と教科内容開発 (基礎・理科) A 授業検証と教科内容開発 (基礎・理科) B 授業検証と教科内容開発 (応用・理科) A 授業検証と教科内容開発 (応用・理科) B 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習 A 臨床教育総合演習 B 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習
		平 真木夫 <令和3年4月> 博士(行動科学)			平 真木夫 <令和3年4月> 博士(行動科学)
	専	教授	専	教授	学びの地図と資質・能力 情報リテラシーとICT 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習 A 臨床教育総合演習 B 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習
		田端 健人 <令和3年4月> 博士(教育学)			田端 健人 <令和3年4月> 博士(教育学)
	専	教授	専	教授	教師の成長と子どもの発達 グローバル教育課題の探究 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習 A 臨床教育総合演習 B 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	本図 愛実 <令和3年4月> 修士(人文科学)	専	教授	本図 愛実 <令和3年4月> 修士(人文科学)
		安心・安全な学級・学校づくり(基礎) 安心・安全な学級・学校づくり(応用) 地域協働と学校づくり リーガルマインドによる学校づくり 学校安全と防災教育 グローバル教育課題の探究 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B			安心・安全な学級・学校づくり(基礎) 安心・安全な学級・学校づくり(応用) 地域協働と学校づくり リーガルマインドによる学校づくり 学校安全と防災教育 グローバル教育課題の探究 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 学校課題探究実習I 学校課題探究実習II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習
		授業検証と教科内容開発(基礎・社会科) 授業検証と教科内容開発(応用・社会科) 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B			授業検証と教科内容開発(基礎・社会科) 授業検証と教科内容開発(応用・社会科) 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 学校課題探究実習I 学校課題探究実習II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習
専	教授	吉田 剛 <令和3年4月> 博士(学校教育学)	専	教授	吉田 剛 <令和3年4月> 博士(学校教育学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・理科)B 授業検証と教科内容開発(応用・理科)B 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B			授業検証と教科内容開発(基礎・理科)B 授業検証と教科内容開発(応用・理科)B 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 学校課題探究実習I 学校課題探究実習II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習
		授業検証と教科内容開発(基礎・理科)B 授業検証と教科内容開発(応用・理科)B 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B			授業検証と教科内容開発(基礎・理科)B 授業検証と教科内容開発(応用・理科)B 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 学校課題探究実習I 学校課題探究実習II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習
専	教授	出口 竜作 <令和3年4月> 博士(理学)	専	教授	出口 竜作 <令和3年4月> 博士(理学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・理科)B 授業検証と教科内容開発(応用・理科)B 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B			授業検証と教科内容開発(基礎・理科)B 授業検証と教科内容開発(応用・理科)B 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 学校課題探究実習I 学校課題探究実習II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習
		授業検証と教科内容開発(基礎・理科)B 授業検証と教科内容開発(応用・理科)B 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B			授業検証と教科内容開発(基礎・理科)B 授業検証と教科内容開発(応用・理科)B 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 学校課題探究実習I 学校課題探究実習II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	内山 哲治 <令和3年4月> 博士(理学)	専	教授	内山 哲治 <令和3年4月> 博士(理学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・理科)A 授業検証と教科内容開発(応用・理科)A 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B			授業検証と教科内容開発(基礎・理科)A 授業検証と教科内容開発(応用・理科)A 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 学校課題探究実習I 学校課題探究実習II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習
専	教授	植木田 潤 <令和3年4月> 修士(心理学)	専	教授	植木田 潤 <令和3年4月> 修士(心理学)
		インクルーシブ教育総論 特別支援教育コーディネーター概論 支援が必要な子どもと学校教育I(知的障害・自閉症スペクトラム障害等) 臨床教育総合演習A(特別支援) 臨床教育総合演習B(特別支援) 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論			インクルーシブ教育総論 特別支援教育コーディネーター概論 支援が必要な子どもと学校教育I(知的障害・自閉症スペクトラム障害等) 臨床教育総合演習A(特別支援) 臨床教育総合演習B(特別支援) 学校課題解決実習(特別支援) 臨床教育開発実習(特別支援) 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 学校課題探究実習I 学校課題探究実習II
専	教授	本田 伊克 <令和3年4月> 博士(社会学)	専	教授	本田 伊克 <令和3年4月> 博士(社会学)
		カリキュラムマネジメントと教師の役割 社会に開かれた教育課程と授業開発 社会変動と学力論 授業設計・教科内容構成論(応用) クロスカリキュラムの学習と評価 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 学校課題探究実習I 学校課題探究実習II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習			カリキュラムマネジメントと教師の役割 社会に開かれた教育課程と授業開発 社会変動と学力論 授業設計・教科内容構成論(応用) クロスカリキュラムの学習と評価 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 学校課題探究実習I 学校課題探究実習II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	堀田 幸義 <令和3年4月> 博士(文学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・社会科) 授業検証と教科内容開発(応用・社会科) 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B
専		
専	准教授	渡辺 尚 <令和3年4月> 博士(生命科学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・理科)A 授業検証と教科内容開発(基礎・理科)B 授業検証と教科内容開発(応用・理科)A 授業検証と教科内容開発(応用・理科)B 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	堀田 幸義 <令和3年4月> 博士(文学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・社会科) 授業検証と教科内容開発(応用・社会科) 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 学校課題探究実習I 学校課題探究実習II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習
専	教授	鈴木 涉 <令和3年4月> Ph.D
		授業設計・教科内容構成論(応用) 授業検証と教科内容開発(基礎・英語科) 授業検証と教科内容開発(応用・英語科) 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 学校課題探究実習I 学校課題探究実習II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習
専		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	市川 啓 <令和3年4月> 修士(教育学)	専	准教授	市川 啓 <令和3年4月> 修士(教育学)
		授業設計・教科内容構成論(基礎) 授業設計・教科内容構成論(応用) 授業検証と教科内容開発(基礎・算数、数学科)A 授業検証と教科内容開発(応用・算数、数学科)A 授業検証と教科内容開発(基礎・算数、数学科)B 授業検証と教科内容開発(応用・算数、数学科)B 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B			授業設計・教科内容構成論(基礎) 授業設計・教科内容構成論(応用) 授業検証と教科内容開発(基礎・算数、数学科)A 授業検証と教科内容開発(応用・算数、数学科)A 授業検証と教科内容開発(基礎・算数、数学科)B 授業検証と教科内容開発(応用・算数、数学科)B 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習
		小畑 千尋 <令和3年4月> 博士(教育学)			
専	准教授	小畑 千尋 <令和3年4月> 博士(教育学)	専	准教授	小畑 千尋 <令和3年4月> 博士(教育学)
		授業設計・教科内容構成論(基礎) 授業検証と教科内容開発(基礎・音楽科) 授業検証と教科内容開発(応用・音楽科) 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B			
		香曾我部 琢 <令和3年4月> 博士(教育学)			
専	准教授	香曾我部 琢 <令和3年4月> 博士(教育学)	専	准教授	香曾我部 琢 <令和3年4月> 博士(教育学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・家庭科) 授業検証と教科内容開発(応用・家庭科) 幼年期の教育と幼保小連携・接続 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B			授業検証と教科内容開発(基礎・家庭科) 授業検証と教科内容開発(応用・家庭科) 幼年期の教育と幼保小連携・接続 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	金田 裕子 <令和3年4月> 修士(教育学)	専	准教授	金田 裕子 <令和3年4月> 修士(教育学)
		学びの地図と資質・能力 社会に開かれた教育課程と授業 開発 教育における臨床の学の創造 教育における臨床の知 教育実践記録と授業分析論 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B			学びの地図と資質・能力 社会に開かれた教育課程と 授業開発 教育における臨床の学の創 造 教育における臨床の知 教育実践記録と授業分析論 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習
		永井 伸幸 <令和3年4月> 修士(心身障害学)			永井 伸幸 <令和3年4月> 修士(心身障害学)
専	准教授	インクルーシブ教育総論 支援が必要な子どもと学校教育 II(感覚障害・運動障害・身体 疾患系) 特別支援教育とICT 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A(特別支 援) 臨床教育総合演習B(特別支 援)	専	准教授	インクルーシブ教育総論 支援が必要な子どもと学校 教育II(感覚障害・運動障 害・身体疾患系) 特別支援教育とICT 学校課題解決実習(特別支 援) 臨床教育開発実習(特別支 援) 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A(特別 支援) 臨床教育総合演習B(特別 支援) 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II
		黒川 修行 <令和3年4月> 博士(医学)			黒川 修行 <令和3年4月> 博士(医学)
専	准教授	授業検証と教科内容開発(基 礎・保健体育科) 授業検証と教科内容開発(応 用・保健体育科) 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B	専	准教授	授業検証と教科内容開発 (基礎・保健体育科) 授業検証と教科内容開発 (応用・保健体育科) 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	越中 康治 <令和3年4月> 博士(心理学)	専	准教授	越中 康治 <令和3年4月> 博士(心理学)
		授業設計・教科内容構成論(基礎) 授業設計・教科内容構成論(応用) 教師の成長と子どもの発達教育における臨床の知 幼年期の教育と幼保小連携・接続 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B			授業設計・教科内容構成論(基礎) 授業設計・教科内容構成論(応用) 教師の成長と子どもの発達教育における臨床の知 幼年期の教育と幼保小連携・接続 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B 学校課題探究実習I 学校課題探究実習II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習
実専	教授	関口 博久 <令和3年4月> 学士(医学)	実専	教授	関口 博久 <令和3年4月> 学士(医学)
		子どもの生活と行動・実態把握論 子どもの生活と行動・実態把握論(特別支援) 子どもの生活と行動・実態分析論 子どもの生活と行動・実態分析論(特別支援) 支援が必要な子どもと学校教育I(知的障害・自閉症スペクトラム障害等) 不登校・学校不適応状況と学校教育 学校課題探究実習I 学校課題探究実習II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B			

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
実専	教授	佐藤 静 <令和3年4月> 博士(情報科学)	実専	教授	佐藤 静 <令和3年4月> 博士(情報科学)
		子どもの生活と行動・実態把握論 子どもの生活と行動・実態把握論(特別支援) 子どもの生活と行動・実態分析論 子どもの生活と行動・実態分析論(特別支援) 不登校・学校不適応状況と学校教育			子どもの生活と行動・実態把握論 子どもの生活と行動・実態把握論(特別支援) 子どもの生活と行動・実態分析論 子どもの生活と行動・実態分析論(特別支援) 不登校・学校不適応状況と学校教育 学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B
実専	教授	丸山 千佳子 <令和3年4月> 学士(教育学)	実専	教授	丸山 千佳子 <令和3年4月> 学士(教育学)
		(研究指導)			学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ 授業設計・教科内容構成論(応用) 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B
			実専	教授	猪股 亮文 <令和3年4月> 修士(教育学)
					学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
実専	准教授	佐藤 美知子 <令和3年4月> 学士(教育学)	実専	准教授	佐藤 美知子 <令和3年4月> 学士(教育学)
		安心・安全な学級・学級づくり(基礎) 安心・安全な学級・学校づくり(応用) 地域協働と学校づくり 教師の成長と子どもの発達 学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ リーガルマインドによる学校づくり 学校安全と防災教育 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B			安心・安全な学級・学級づくり(基礎) 安心・安全な学級・学校づくり(応用) 地域協働と学校づくり 教師の成長と子どもの発達 学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ リーガルマインドによる学校づくり 学校安全と防災教育 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B
実専	准教授	澤田 茂実 <令和3年4月> 学士(教育学)	実専	准教授	澤田 茂実 <令和3年4月> 学士(教育学)
		カリキュラムマネジメントと教師の役割 社会に開かれた教育課程と授業開発 教育における臨床の学の創造 学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ 教育における臨床の知 教育実践記録と授業分析論 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B			カリキュラムマネジメントと教師の役割 社会に開かれた教育課程と授業開発 教育における臨床の学の創造 学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ 教育における臨床の知 教育実践記録と授業分析論 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B
実専	准教授	信太 昭伸 <令和3年4月> 学士(教育学)	実専	准教授	信太 昭伸 <令和3年4月> 学士(教育学)
		学びの地図と資質・能力 授業設計・教科内容構成論(基礎) 授業設計・教科内容構成論(応用) 学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ 情報リテラシーとICT 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B			学びの地図と資質・能力 授業設計・教科内容構成論(基礎) 授業設計・教科内容構成論(応用) 学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ 情報リテラシーとICT 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B リーガルマインドによる学校づくり 学校安全と防災教育

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名	担当授業科目名
兼任	教授	高橋 潔 <令和3年4月> 文学修士	高橋 潔 <令和3年4月> 文学修士
		授業検証と教科内容開発(基礎・英語科) 授業検証と教科内容開発(応用・英語科)	授業検証と教科内容開発(基礎・英語科) 授業検証と教科内容開発(応用・英語科)
兼任	教授	高瀬 幸一 <令和3年4月> 理学博士	高瀬 幸一 <令和3年4月> 理学博士
		授業検証と教科内容開発(基礎・算数、数学科)A 授業検証と教科内容開発(応用・算数、数学科)A 授業検証と教科内容開発(基礎・算数、数学科)B 授業検証と教科内容開発(応用・算数、数学科)B	授業検証と教科内容開発(基礎・算数、数学科)A 授業検証と教科内容開発(応用・算数、数学科)A 授業検証と教科内容開発(基礎・算数、数学科)B 授業検証と教科内容開発(応用・算数、数学科)B 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習 A 臨床教育総合演習 B
兼任	教授	川村 寿郎 <令和3年4月> 理学博士	川村 寿郎 <令和3年4月> 理学博士
		授業検証と教科内容開発(基礎・理科)B 授業検証と教科内容開発(応用・理科)B	授業検証と教科内容開発(基礎・理科)B 授業検証と教科内容開発(応用・理科)B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	遠藤 仁 <令和3年4月> 文学修士	兼任	教授	遠藤 仁 <令和3年4月> 文学修士
		授業検証と教科内容開発(基礎・国語科) 授業検証と教科内容開発(応用・国語科)			授業検証と教科内容開発(基礎・国語科) 授業検証と教科内容開発(応用・国語科) 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習 A 臨床教育総合演習 B
兼任	教授	佐藤 節子 <令和3年4月> 文学修士	兼任	教授	佐藤 節子 <令和3年4月> 文学修士
		授業検証と教科内容開発(基礎・保健体育科) 授業検証と教科内容開発(応用・保健体育科)			授業検証と教科内容開発(基礎・保健体育科) 授業検証と教科内容開発(応用・保健体育科)
兼任	教授	虎尾 裕 <令和3年4月> 美術学修士	兼任	教授	虎尾 裕 <令和3年4月> 美術学修士
		授業検証と教科内容開発(応用・美術科)			授業検証と教科内容開発(応用・美術科) 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習 A 臨床教育総合演習 B
兼任	教授	松岡 尚敏 <令和3年4月> 教育学修士	兼任	教授	松岡 尚敏 <令和3年4月> 教育学修士
		授業検証と教科内容開発(基礎・社会科) 授業検証と教科内容開発(応用・社会科)			授業検証と教科内容開発(基礎・社会科) 授業検証と教科内容開発(応用・社会科)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼担	教授	小野寺 泰子 <令和3年4月> 修士(教育学)	兼担	教授	小野寺 泰子 <令和3年4月> 修士(教育学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・家庭科) 授業検証と教科内容開発(応用・家庭科)			授業検証と教科内容開発(基礎・家庭科) 授業検証と教科内容開発(応用・家庭科)
兼担	教授	池田 晃一 <令和3年4月> 体育学修士	兼担	教授	池田 晃一 <令和3年4月> 体育学修士
		授業検証と教科内容開発(基礎・保健体育科) 授業検証と教科内容開発(応用・保健体育科)			授業検証と教科内容開発(基礎・保健体育科) 授業検証と教科内容開発(応用・保健体育科) 学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B
兼担	教授	亀井 文 <令和3年4月> 博士(学術)	兼担	教授	亀井 文 <令和3年4月> 博士(学術)
		授業検証と教科内容開発(基礎・家庭科) 授業検証と教科内容開発(応用・家庭科)			授業検証と教科内容開発(基礎・家庭科) 授業検証と教科内容開発(応用・家庭科)
兼担	教授	西城 潔 <令和3年4月> 理学修士	兼担	教授	西城 潔 <令和3年4月> 理学修士
		授業検証と教科内容開発(基礎・社会科) 授業検証と教科内容開発(応用・社会科)			授業検証と教科内容開発(基礎・社会科) 授業検証と教科内容開発(応用・社会科) 学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名		
兼任	教授	木下 英俊 <令和3年4月> 体育学修士	教授	木下 英俊 <令和3年4月> 体育学修士
		授業検証と教科内容開発(基礎・保健体育科) 授業検証と教科内容開発(応用・保健体育科)		授業検証と教科内容開発(基礎・保健体育科) 授業検証と教科内容開発(応用・保健体育科)
兼任	教授	児玉 忠 <令和3年4月> 教育学修士	教授	児玉 忠 <令和3年4月> 教育学修士
		授業設計・教科内容構成論(応用) 授業検証と教科内容開発(基礎・国語科) 授業検証と教科内容開発(応用・国語科)		授業設計・教科内容構成論(応用) 授業検証と教科内容開発(基礎・国語科) 授業検証と教科内容開発(応用・国語科)
兼任	教授	猿渡 英之 <令和3年4月> 博士(工学)	教授	猿渡 英之 <令和3年4月> 博士(工学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・理科)A 授業検証と教科内容開発(応用・理科)A		授業検証と教科内容開発(基礎・理科)A 授業検証と教科内容開発(応用・理科)A 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習 A 臨床教育総合演習 B
兼任	教授	高田 淑子 <令和3年4月> Ph. D	教授	高田 淑子 <令和3年4月> Ph. D
		授業検証と教科内容開発(基礎・理科)B 授業検証と教科内容開発(応用・理科)B		授業検証と教科内容開発(基礎・理科)B 授業検証と教科内容開発(応用・理科)B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	中地 文 <令和3年4月> 文学修士
		授業検証と教科内容開発(基礎・国語科) 授業検証と教科内容開発(応用・国語科)
兼任	教授	西川 重和 <令和3年4月> 博士(工学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・家庭科) 授業検証と教科内容開発(応用・家庭科)
兼任	教授	市瀬 智紀 <令和3年4月> 博士(教育学)
		安心・安全な学級・学級づくり(基礎) 安心・安全な学級・学校づくり(応用) 地域協働と学校づくり グローバル教育課題の探究
兼任	教授	佐藤 哲也 <令和3年4月> 修士(文学)
		グローバル教育課題の探究 幼年期の教育と幼保小連携・接続
兼任	教授	平垣内 清 <令和3年4月> 修士(美術学)
		授業検証と教科内容開発(応用・美術科)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	中地 文 <令和3年4月> 文学修士
		授業検証と教科内容開発(基礎・国語科) 授業検証と教科内容開発(応用・国語科) 学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B
兼任	教授	西川 重和 <令和3年4月> 博士(工学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・家庭科) 授業検証と教科内容開発(応用・家庭科)
兼任	教授	市瀬 智紀 <令和3年4月> 博士(教育学)
		安心・安全な学級・学級づくり(基礎) 安心・安全な学級・学校づくり(応用) 地域協働と学校づくり グローバル教育課題の探究
兼任	教授	佐藤 哲也 <令和3年4月> 修士(文学)
		グローバル教育課題の探究 幼年期の教育と幼保小連携・接続
兼任	教授	平垣内 清 <令和3年4月> 修士(美術学)
		授業検証と教科内容開発(応用・美術科)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	福田 善之 <令和3年4月> 博士(理学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・理科) A 授業検証と教科内容開発(応用・理科) A
兼担	教授	小塩 さとみ <令和3年4月> 博士(人文科学)
		教師の成長と子どもの発達 授業検証と教科内容開発(基礎・音楽科) 授業検証と教科内容開発(応用・音楽科)
兼担	教授	田谷 久雄 <令和3年4月> 博士(理学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・算数、数学科) A 授業検証と教科内容開発(応用・算数、数学科) A 授業検証と教科内容開発(基礎・算数、数学科) B 授業検証と教科内容開発(応用・算数、数学科) B
兼担	教授	鎌田 博行 <令和3年4月> 博士(理学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・算数、数学科) A 授業検証と教科内容開発(応用・算数、数学科) A 授業検証と教科内容開発(基礎・算数、数学科) B 授業検証と教科内容開発(応用・算数、数学科) B

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	福田 善之 <令和3年4月> 博士(理学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・理科) A 授業検証と教科内容開発(応用・理科) A
兼担	教授	小塩 さとみ <令和3年4月> 博士(人文科学)
		教師の成長と子どもの発達 授業検証と教科内容開発(基礎・音楽科) 授業検証と教科内容開発(応用・音楽科)
兼担	教授	田谷 久雄 <令和3年4月> 博士(理学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・算数、数学科) A 授業検証と教科内容開発(応用・算数、数学科) A 授業検証と教科内容開発(基礎・算数、数学科) B 授業検証と教科内容開発(応用・算数、数学科) B 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習 A 臨床教育総合演習 B
兼担	教授	鎌田 博行 <令和3年4月> 博士(理学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・算数、数学科) A 授業検証と教科内容開発(応用・算数、数学科) A 授業検証と教科内容開発(基礎・算数、数学科) B 授業検証と教科内容開発(応用・算数、数学科) B 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習 A 臨床教育総合演習 B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	菅原 敏 <令和3年4月> 博士(理学)	兼任	教授	菅原 敏 <令和3年4月> 博士(理学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・理科) B 授業検証と教科内容開発(応用・理科) B			授業検証と教科内容開発(基礎・理科) B 授業検証と教科内容開発(応用・理科) B
兼任	教授	竹森 徹士 <令和3年4月> 修士(文学)	兼任	教授	竹森 徹士 <令和3年4月> 修士(文学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・英語科) 授業検証と教科内容開発(応用・英語科)			授業検証と教科内容開発(基礎・英語科) 授業検証と教科内容開発(応用・英語科)
兼任	教授	笠井 香代子 <令和3年4月> 博士(理学)	兼任	教授	笠井 香代子 <令和3年4月> 博士(理学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・理科) A 授業検証と教科内容開発(応用・理科) A			授業検証と教科内容開発(基礎・理科) A 授業検証と教科内容開発(応用・理科) A 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習 A 臨床教育総合演習 B
兼任	教授	門田 和雄 <令和3年4月> 博士(工学)	兼任	教授	門田 和雄 <令和3年4月> 博士(工学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・技術科) 授業検証と教科内容開発(応用・技術科)			授業検証と教科内容開発(基礎・技術科) 授業検証と教科内容開発(応用・技術科)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	倉戸 テル <令和3年4月> 修士(音楽)
		教師の成長と子どもの発達 授業検証と教科内容開発(基 礎・音楽科) 授業検証と教科内容開発(応 用・音楽科)
兼任	教授	菅原 正則 <令和3年4月> 博士(工学)
		授業検証と教科内容開発(基 礎・家庭科) 授業検証と教科内容開発(応 用・家庭科)
兼任	教授	高橋 亜紀子 <令和3年4月> 修士(文学)
		安心・安全な学級・学級づくり (基礎) 安心・安全な学級・学校づくり (応用) グローバル教育課題の探究
兼任	教授	原田 博之 <令和3年4月> 修士(音楽学)
		授業検証と教科内容開発(基 礎・音楽科) 授業検証と教科内容開発(応 用・音楽科)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	倉戸 テル <令和3年4月> 修士(音楽)
		教師の成長と子どもの発達 授業検証と教科内容開発 (基礎・音楽科) 授業検証と教科内容開発 (応用・音楽科) 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習 A 臨床教育総合演習 B
兼任	教授	菅原 正則 <令和3年4月> 博士(工学)
		授業検証と教科内容開発 (基礎・家庭科) 授業検証と教科内容開発 (応用・家庭科)
兼任	教授	高橋 亜紀子 <令和3年4月> 修士(文学)
		安心・安全な学級・学級づ くり(基礎) 安心・安全な学級・学校づ くり(応用) グローバル教育課題の探究
兼任	教授	原田 博之 <令和3年4月> 修士(音楽学)
		授業検証と教科内容開発 (基礎・音楽科) 授業検証と教科内容開発 (応用・音楽科) 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習 A 臨床教育総合演習 B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	川崎 惣一 <令和3年4月> 博士(文学)	兼任	教授	川崎 惣一 <令和3年4月> 博士(文学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・社会科) 授業検証と教科内容開発(応用・社会科)			授業検証と教科内容開発(基礎・社会科) 授業検証と教科内容開発(応用・社会科)
兼任	教授	田中 良英 <令和3年4月> 博士(文学)	兼任	教授	田中 良英 <令和3年4月> 博士(文学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・社会科) 授業検証と教科内容開発(応用・社会科)			授業検証と教科内容開発(基礎・社会科) 授業検証と教科内容開発(応用・社会科) 学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B
兼任	教授	石田 雅樹 <令和3年4月> 博士(学術)	兼任	教授	石田 雅樹 <令和3年4月> 博士(学術)
		授業検証と教科内容開発(基礎・社会科) 授業検証と教科内容開発(応用・社会科)			授業検証と教科内容開発(基礎・社会科) 授業検証と教科内容開発(応用・社会科) 学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B
兼任	教授	溝田 浩二 <令和3年4月> 修士(農学)	兼任	教授	溝田 浩二 <令和3年4月> 修士(農学)
		クロスカリキュラムの学習と評価 地域協働フィールドワーク論			クロスカリキュラムの学習と評価 地域協働フィールドワーク論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	安藤 明伸 <令和3年4月> 博士(学術)
		授業検証と教科内容開発(基礎・技術科) 授業検証と教科内容開発(応用・技術科) 情報リテラシーとICT
兼任	准教授	武井 眞澄 <令和3年4月> 教育学修士
		特別支援教育と学校・学級経営 特別支援教育と学校・学級経営(特別支援) 子どもをめぐる社会的諸問題と福祉
兼任	准教授	村上 タカシ <令和3年4月> 修士(教育情報学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・美術科) 授業検証と教科内容開発(応用・美術科)
兼任	准教授	三科 聡子 <令和3年4月> 文学修士
		特別支援教育と学校・学級経営 特別支援教育と学校・学級経営(特別支援) 特別支援教育コーディネーター概論 子どもをめぐる社会的諸問題と福祉

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	安藤 明伸 <令和3年4月> 博士(学術)
		授業検証と教科内容開発(基礎・技術科) 授業検証と教科内容開発(応用・技術科) 情報リテラシーとICT 学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B
兼任	准教授	武井 眞澄 <令和3年4月> 教育学修士
		特別支援教育と学校・学級経営 特別支援教育と学校・学級経営(特別支援) 子どもをめぐる社会的諸問題と福祉
兼任	准教授	村上 タカシ <令和3年4月> 修士(教育情報学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・美術科) 授業検証と教科内容開発(応用・美術科)
兼任	准教授	三科 聡子 <令和3年4月> 文学修士
		特別支援教育と学校・学級経営 特別支援教育と学校・学級経営(特別支援) 特別支援教育コーディネーター概論 子どもをめぐる社会的諸問題と福祉

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	佐藤 得志 <令和3年4月> 博士(理学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・算数、数学科) A 授業検証と教科内容開発(応用・算数、数学科) A 授業検証と教科内容開発(基礎・算数、数学科) B 授業検証と教科内容開発(応用・算数、数学科) B
兼担	准教授	安彦 文平 <令和3年4月> 修士(美術)
		授業検証と教科内容開発(基礎・美術科)
兼担	准教授	飯島 典子 <令和3年4月> 博士(教育学)
		幼年期の教育と幼保小連携・接続
兼担	准教授	棟方 有宗 <令和3年4月> 博士(農学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・理科) B 授業検証と教科内容開発(応用・理科) B

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	佐藤 得志 <令和3年4月> 博士(理学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・算数、数学科) A 授業検証と教科内容開発(応用・算数、数学科) A 授業検証と教科内容開発(基礎・算数、数学科) B 授業検証と教科内容開発(応用・算数、数学科) B 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習 A 臨床教育総合演習 B
兼担	准教授	安彦 文平 <令和3年4月> 修士(美術)
		授業検証と教科内容開発(基礎・美術科)
兼担	准教授	飯島 典子 <令和3年4月> 博士(教育学)
		幼年期の教育と幼保小連携・接続
兼担	准教授	棟方 有宗 <令和3年4月> 博士(農学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・理科) B 授業検証と教科内容開発(応用・理科) B 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習 A 臨床教育総合演習 B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名	
兼任	准教授	小林 恭士 <令和3年4月> 博士(理学)	小林 恭士 <令和3年4月> 博士(理学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・理科) B 授業検証と教科内容開発(応用・理科) B	授業検証と教科内容開発(基礎・理科) B 授業検証と教科内容開発(応用・理科) B
兼任	准教授	中山 慎也 <令和3年4月> 修士(理学)	中山 慎也 <令和3年4月> 修士(理学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・理科) A 授業検証と教科内容開発(応用・理科) A 授業検証と教科内容開発(基礎・理科) B 授業検証と教科内容開発(応用・理科) B	授業検証と教科内容開発(基礎・理科) A 授業検証と教科内容開発(応用・理科) A 授業検証と教科内容開発(基礎・理科) B 授業検証と教科内容開発(応用・理科) B 学校課題探究実習 I 学校課題探究実習 II 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習 A 臨床教育総合演習 B
兼任	准教授	リース エイドリアン <令和3年4月> 博士(教育情報学)	リース エイドリアン <令和3年4月> 博士(教育情報学)
		授業検証と教科内容開発(基礎・英語科) 授業検証と教科内容開発(応用・英語科)	授業検証と教科内容開発(基礎・英語科) 授業検証と教科内容開発(応用・英語科)
兼任	准教授	山内 明美 <令和3年4月> 修士(学術)	山内 明美 <令和3年4月> 修士(学術)
		授業検証と教科内容開発(基礎・社会科) 授業検証と教科内容開発(応用・社会科)	授業検証と教科内容開発(基礎・社会科) 授業検証と教科内容開発(応用・社会科)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	松崎 丈 <令和3年4月> 博士(教育学)
		インクルーシブ教育総論 特別支援教育コーディネーター 概論 支援が必要な子どもと学校教育 Ⅱ(感覚障害・運動障害・身体 疾患系) 子どもをめぐる社会的諸問題と 福祉 特別支援教育とICT
兼担	准教授	西山 正吾 <令和3年4月> 博士(理学)
		授業検証と教科内容開発(基 礎・理科)A 授業検証と教科内容開発(応 用・理科)A
兼担	准教授	寺本 淳志 <令和3年4月> 修士(教育学) 修士(心身障害学)
		インクルーシブ教育総論 支援が必要な子どもと学校教育 Ⅱ(感覚障害・運動障害・身体 疾患系) 特別支援教育とICT
兼担	准教授	佐々木 達 <令和3年4月> 博士(理学)
		授業検証と教科内容開発(基 礎・社会科) 授業検証と教科内容開発(応 用・社会科)
兼担	准教授	野崎 義和 <令和3年4月> 博士(教育学)
		特別支援教育と学校・学級経営 特別支援教育と学校・学級経営 (特別支援) 支援が必要な子どもと学校教育 Ⅰ(知的障害・自閉症スペク ラム障害等)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	松崎 丈 <令和3年4月> 博士(教育学)
		インクルーシブ教育総論 特別支援教育コーディネー ター概論 支援が必要な子どもと学校 教育Ⅱ(感覚障害・運動障 害・身体疾患系) 子どもをめぐる社会的諸問 題と福祉 特別支援教育とICT
兼担	准教授	西山 正吾 <令和3年4月> 博士(理学)
		授業検証と教科内容開発 (基礎・理科)A 授業検証と教科内容開発 (応用・理科)A
兼担	准教授	寺本 淳志 <令和3年4月> 修士(教育学) 修士(心身障害学)
		インクルーシブ教育総論 支援が必要な子どもと学校 教育Ⅱ(感覚障害・運動障 害・身体疾患系) 特別支援教育とICT
兼担	准教授	佐々木 達 <令和3年4月> 博士(理学)
		授業検証と教科内容開発 (基礎・社会科) 授業検証と教科内容開発 (応用・社会科)
兼担	准教授	野崎 義和 <令和3年4月> 博士(教育学)
		特別支援教育と学校・学級 経営 特別支援教育と学校・学級 経営(特別支援) 支援が必要な子どもと学校 教育Ⅰ(知的障害・自閉症 スペクトラム障害等)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	講師	沼倉 学 <令和3年4月> 修士(教育学) 授業検証と教科内容開発(基礎・保健体育科) 授業検証と教科内容開発(応用・保健体育科)
兼担	講師	佐藤 亮平 <令和3年4月> 博士(教育学) 授業検証と教科内容開発(基礎・保健体育科) 授業検証と教科内容開発(応用・保健体育科)
兼担	講師	吉川 和夫 <令和3年4月> 音楽学修士 授業検証と教科内容開発(基礎・音楽科) 授業検証と教科内容開発(応用・音楽科)
兼担	講師	笹村 恵司 <令和3年4月> 学士(教育学) リーガルマインドによる学校づくり

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	花園 隼人 <令和3年4月> 修士(教育学) 学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B
兼担	講師	沼倉 学 <令和3年4月> 修士(教育学) 授業検証と教科内容開発(基礎・保健体育科) 授業検証と教科内容開発(応用・保健体育科)
兼担	講師	佐藤 亮平 <令和3年4月> 博士(教育学) 授業検証と教科内容開発(基礎・保健体育科) 授業検証と教科内容開発(応用・保健体育科) 学校課題探究実習Ⅰ 学校課題探究実習Ⅱ 学校課題解決実習 臨床教育開発実習 実態把握と実践適応論 実践適応と評価・分析論 臨床教育総合演習A 臨床教育総合演習B
兼担	講師	吉川 和夫 <令和3年4月> 音楽学修士 授業検証と教科内容開発(基礎・音楽科) 授業検証と教科内容開発(応用・音楽科)
兼担	講師	笹村 恵司 <令和3年4月> 学士(教育学) リーガルマインドによる学校づくり

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
					小畑 千尋 <令和3年4月> 博士(教育学)
			兼任	講師	授業設計・教科内容構成論 (基礎) 授業検証と教科内容開発 (基礎・音楽科) 授業検証と教科内容開発 (応用・音楽科)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・申請時に准教授であった渡辺氏及び鈴木氏の教授昇任、猪股氏の教授就任により、教授の数が3名増。
- ・小畑准教授の退職に伴う専任教員就任辞退、渡辺准教授及び鈴木准教授の昇任により、准教授の数が3名減。
- ・小畑准教授は兼任教員として授業を担当することで質の保証を担保。

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数
13	6	6
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【教職大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
17	14	0	0	31	0	20	11	0	0	31	0
(20)	(11)	(0)	(0)	(31)	(0)						
研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当の教員数	/		
25	6	0				24	7	0			
(24)	(7)	(0)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
20	11	0	0	31	0	20	11	0	0	31	0
[3]	[Δ3]	[0]	[0]	[0]	[0]	[3]	[Δ3]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当の教員数	/		
24	7	0				24	7	0			
[Δ1]	[1]	[0]				[Δ1]	[1]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受理済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ 1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ 1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	2	2
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{31}{31} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{31} = \boxed{6.45} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	准教授	小畑 千尋	R3.3	選択	授業設計・教科内容構成論（基礎）	②	令和3年4月から、文教大学に就任するため就任辞退。			
				選択	授業検証と教科内容開発（基礎・音楽科）	②				
				選択	授業検証と教科内容開発（応用・音楽科）	②				
				必修	実態把握と実践適応論	①				
				必修	実践適応と評価・分析論	①				
				必修	臨床教育総合演習A	①				
合計（D）				後任補充状況の集計（E）						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
1	人	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	0	科目
		選択	3	科目	選択	0	科目	選択	3	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	7	科目	計	4	科目	計	3	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況 該当なし

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
合計（F）				後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）		
人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）						
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
1	人	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	0	科目
		選択	3	科目	選択	0	科目	選択	3	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	7	科目	計	4	科目	計	3	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)合計(D)+(F)}{(2)-(2)設置時の計画(A)} = \frac{1}{31} = 3.22\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況 該当なし

人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況 該当なし

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
人	必修	0	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
	選択	0	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
	自由	0	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
	計	0	科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼任教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>担当予定の科目については、兼任教員として担当、もしくは他の専任教員により補充を予定しており、全体的な教育の質の確保はできている。学生への周知方法については、授業時間割を履修のしおりに掲載することにより周知している。</p>
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等 該当なし

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<教育学研究科 高度教職実践専攻（専門職学位課程）>

(1) 設置計画変更事項等 該当なし

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>点検・評価室内に設置された質保障点検・実施部会が所掌している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>点検・評価室会議は月1回程度開催されるほか、質保障点検・FD部会についても月1回程度開催している。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>教職大学院に関するFDの実施計画を、質保障点検・FD部会が策定し、専任教員を構成員とする高度教職実践専攻（教職大学院）運営委員会で報告を行っている。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT活用や授業実践事例、附属学校の取組等に関する研修会 ・ しょうがい学生等への支援に関する研修会 ・ 危機管理意識管理向上のための研修会 <p>b 実施方法</p> <p>学内の専任教員や推薦教員への講師の依頼、情報活用能力育成機構やしょうがい学生支援室、防災教育研修機構と連携し、オンライン形式にて実施した。研修会時の録画映像をオンデマンド形式でも配信することにより当日都合がつかない教員でも参加できるようにし、また、参加済の教員も何度も繰り返し視聴できるようにした。また、実施後にアンケートも合わせて行い、次回以降のテーマ設定の参考にした。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT活用のための研修会（令和2年10月28日教員62名参加） ・ しょうがい学生支援に関する研修会（令和2年11月6日教員42名参加） ・ 附属学校でのオンライン授業の取組と大学との連携に関する研修会（令和2年11月25日教員41名参加） ・ ハラスメント防止のための研修会（令和3年2月4日教員37名参加） ・ 授業実践事例紹介を含むオンラインスキル向上のための研修会（令和3年2月17日教員47名参加） ・ 避難訓練動画を含む危機管理意識向上のための研修会（4月下旬～5月実施中） ・ 視覚・聴覚しょうがい学生等への支援に関する研修会（6月下旬～7月実施予定） ・ 授業実践事例紹介や附属学校の取組に関する発表の研修会（時期未定）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

・ICT活用のための研修会

実際の画面を操作しながらオンライン授業のツールを紹介することにより、GoogleClassroomやMicrosoftTeamsの操作方法を理解し、ネットワーク障害により使用が困難になる場合に備えて、代替の方法を用意することができた。

・しょうがい学生支援に関する研修会

しょうがいのある学生に実施した支援の紹介やしょうがい学生とノートテイク等を対象に実施したアンケートの結果から、オンライン授業での支援の成果や、支援を必要としている学生だけではなく支援者側にも配慮する必要がある等の課題から、授業改善のためのポイントを全学的に共有することができた。

・附属学校でのオンライン授業の取組と大学との連携に関する研修会

附属学校の先生方による学校現場での先進的な情報教育の取組の講演や、大学・大学院への要望等を含めたディスカッションを行い、教科教育や教育実習の連携などに関する有意義な議論を行うことができた。

・ハラスメント防止のための研修会

人事院規則や「職員が認識すべき事項についての指針」等を含む学内諸規則を参照し、加害・被害の関係が生じないよう防止することの必要性、学生に指導する際の言動の注意点について、自身の言動の見直しと再確認を行った。

・授業実践事例紹介を含むオンラインスキル向上のための研修会

オンライン授業において有用なコンテンツ等の紹介と授業での活用例、しょうがい学生に配慮したスライドの作成方法等の授業実践事例紹介の発表と意見交換を行い、すぐに授業に活用できるスキルの共有、ICTの可能性や注意点を学ぶ研修会となった。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期・後期の授業終了時（前期については8月はじめ、後期については1月末）にそれぞれ実施する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートについて、質保障点検・FD部会で整理分析のうえ、専攻運営委員会で専任教員に対して情報提供を行い、FDおよび授業改善に生かす。また、授業評価アンケート結果を学生に示した上で、前期、後期に教員と学生の意見交換会を実施し、学生の授業に対する要望を聴取し、授業改善に生かす。

(注) ・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

教育連携会議

委員については、現在、調整中

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

年2回開催（令和2年度開催実績：令和2年6月30日及び令和3年1月19日）

c 委員会の審議事項等

・教育学研究科における地域の教育関係者等との連携による授業科目の開発及び開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項

・教育学研究科における地域の教育関係者等との連携による授業の実施その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

- ・宮城教育大学における大学改革の全体構想について
- ・新教職大学院について
- ・「学校教育創造・研修校」について

b 教育連携会議が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

- ・現職派遣教員（2年派遣教員）の2年次における学校等での実習の内容等

c 教育連携会議が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

- ・現職派遣教員（2年派遣教員）の2年次における学校等での実習の内容等

(4) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>教員配置、授業科目、県市教育委員会との連携等、ほぼ計画通りに開設できたことにより、順調に進捗している。設置の趣旨・目的に沿った教育・研究活動に取り組んでいきたい。</p> <p>② 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表（予定）時期</p> <ul style="list-style-type: none">・令和4年度末 公表 <p>b 公表方法</p> <ul style="list-style-type: none">・大学ホームページ上に公開予定（令和4年度末を予定） <p>③ 認証評価を受ける計画</p> <ul style="list-style-type: none">・令和3年に評価機関（一般財団法人教員養成評価機構）の評価を受ける予定である。
--

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）</p> <p>a 公表予定の有無 [有]</p> <p>≪ aで「有」の場合 ≫</p> <p>b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内]</p> <p>c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載]</p> <p>≪ aで公表「無」の場合 ≫</p> <p>d 公表しない理由 []</p>

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。